

第 15 回日中韓国際大学院生アカデミックフォーラム参加・発表報告

生命地球科学研究群では、韓国の高麗大学校主催で 2023 年 11 月 28 日~11 月 30 日の 3 日間にわたって開催された「第 15 回日中韓国際大学院生アカデミックフォーラム」に参加しました。今年度は 4 年ぶりの対面大会での実施となり、教員代表として角替教授及び康承源准教授の引率のもと院生 10 名を派遣し、計 12 名が参加しました。学生リーダーの Nichmon PUAGSANG さん（生命産業科学学位プログラム（博士後期課程）3 年次）、Min Soo Shin さん（生物資源科学学位プログラム（博士前期課程）2 年次）及び Suhyun Jeon さん（生物資源科学学位プログラム（博士前期課程）1 年次）の 3 名が今回中心となり、アイスブレイク練習会などを企画しました。昨年度と同様、生命産業学位プログラム・楊 英男教授による「プレゼンのスキルアップ講座」を 10 月に開催し、9 名の学生が参加しました。

今大会は「6th Global Conference: ESG Management & Sustainability」のカンファレンスと共催で実施され(ESG: Environment Social, and Governance の略語)、環境工学に関する学問、産業、ビジネスモデル等をめぐる様々な分野の専門家による特別講演が実施されました。

1 日目の 28 日のオープニングセレモニーでは、フォーラムの主催である高麗大学の Yong Sik Ok 教授の挨拶に続き、Jamil Ahmad さん（Director, UN Environment Programme, New York Office）からのウェルカムスピーチがありました。その後 Bruno Oberle さん（16th Director General, International Union for the Conservation of Nature (IUCN)）及び Jong Soo Yoon さん（President, International Union for the Conservation of Nature (IUCN) Korea / Senior Advisor, Kim & Chang）の基調講演が行われました。

Global Trends and Prospects for ESG Management I セッションでは、Jay Hyuk Rhee 教授（School of Business Administration, Korea University）、William Mitch 教授（Doerr School of Sustainability, Stanford University）、Scott X. Chang 教授（Professor, University of Alberta）及び Jörg Rinklebe 学会長（International Society of Trace Element Biogeochemistry, ISTE）の 4 人の講演が実施されました。

Global Trends and Prospects for ESG Management II セッションでは、Ali Abbas 教授（The University of Sydney）、Longbin Huang 教授（Principal Research Fellow & Program Leader, Ecological Engineering of Mine Wastes (Soil-Plant Systems), Center for Mined Land Rehabilitation, Sustainable Minerals Institute, The University of Queensland）、Michael S. Bank 教授（University of Massachusetts Amherst）、Daniel Alessi 教授（Professor, University of Alberta）及び Amir Amel-Zadeh 教授（Professor, Saïd Business School, University of Oxford）の講演が実施されました。

Climate Change and Biodiversity: TCFD & TNFD セッションでは、Jae Soo Bae 院長（韓国国立山林科学院）、June-Yi Lee 教授（Research Center for Climate Sciences, Pusan

National University)、Yoora Cho 協会長 (International ESG Association) による講演が実施されました。

Strategy for Dealing with TNFD [S&P Global Special Session]セッションでは、Young Jin Lee 理事 (Head, Korea ESG Solution, S&P Global)、Jaeho Kim 先任分析家 (Sustainability Analytics Services, APAC, S&P Global Sustainable1) による講演が実施されました。

初日の夜には、カンファレンスとシンポジウム参加者合同の懇親会が、学外の飲食店にて開催されました。ただし、一般参加者と大学院生は別会場でした。

2日目の Conversation on Sustainability with the NATURE Chief Editors セッションでは、参加学生たちのモチベーションをあげるため、Nature Publishing Group の雑誌である Nature Climate Change (IF: 28.862, 2021 年)及び Nature Reviews Psychology (2022 年度創刊)の Chief Editor らによる特別講演が設けられ、雑誌についての紹介、論文作成時の注意点やアドバイスなどの説明がありました。

Global ESG Lecture Series I セッションでは、William Mitch 教授 (Doerr School of Sustainability, Stanford University) と Iman Harymawan 教授 (Airlangga University) の講演が行われました。

Emerging “E” Issues in the ESG era: JCK Forum X APRU SWM I セッションでは、Filip Tack 教授 (Ghent University) と Ki Bong Lee 教授 (Korea University) の公演が実施された後、計 8 名の学生による口頭発表が行われました。

Emerging “E” Issues in the ESG era: JCK Forum X APRU SWM II セッションでは、Michael S Bank 教授 (University of Massachusetts Amherst) と Xiangzhou Yuan (Southeast University) の公演後に 8 名の口頭発表が行われ、本学の Min Soo Shin さん (生物資源科学学位プログラム (博士前期課程) 2 年次) と Suhyun Jeon さん (生物資源科学学位プログラム (博士前期課程) 1 年次) 及び Guangqi An さん (生命産業科学学位プログラム (博士後期課程) 2 年次) の 3 名が発表を行いました。

Emerging “E” Issues in the ESG era: JCK Forum X APRU SWM III セッションでは、Carol Lin 教授 (City University of Hong Kong) と Lihu Yang 教授 (Chinese Academy of Sciences) の公演と 8 名の学生による口頭発表が行われました。

Emerging “E” Issues in the ESG era: JCK Forum X APRU SWM IV セッションでは、Longbin Huang 教授 (University of Queensland) と Janice Kenney 教授 (MacEwan University) の公演後に 11 名の口頭発表が行われ、本学の Hongjian Zhang さん (生命産業科学学位プログラム (博士後期課程) 1 年次) と Peifu Kong さん (農学学位プログラム (博士後期課程) 2 年次) が発表を行いました。

最終日の 3 日目には口頭発表及び Nature Climate Change と Nature Reviews Psychology の Chief Editor による Nature Master Class が実施され、8 時間にかけて論文作成法につい

てなどの特別講義が実施されました。Nature Master Class には本学の ZHANG HONGJIAN さんが参加しました。

Emerging “E” Issues in the ESG era: JCK Forum X APRU SWM Vセッションでは、Chow Pin Tan 副会長 (Sales & Business Development APAC & India, Total Energies Corbion)、Seong-kyun Im

教授 (Korea University)、Daniel Alessi 教授 (University of Alberta) による講演が行われた後、本学の Jingwei Yang さん (生物資源科学学位プログラム(博士前期課程) 1 年次)と Jing Xu さん (環境学学位プログラム (博士後期課程) 1 年次) の口頭発表が行われました。

Emerging “E” Issues in the ESG era: JCK Forum X APRU SWM VIでは、Patryk Oleszczuk 教授 (Maria Curie-Sklodowska University) と Baojun Yi 教授 (Huazhong Agricultural University) の講演が行われた後、本学の Nichimon Puagsang (生命産業科学学位プログラム (博士後期課程) 3 年次) を含む 7 名の学生が発表を行いました。

最終のセッションの Emerging “E” Issues in the ESG era: JCK Forum X APRU SWM VIIでは、Ali Abbas 教授 (Director, Waste Transformation Research Hub of the University of Sydney) と Renjie Dong 教授 (China Agricultural University) の講演が実施された後、本学の Xinyi Huang さん (地球科学学位プログラム (博士前期課程) 2 年次) 及び Marlon Rivera さん (生命産業科学学位プログラム (博士後期課程) 1 年次) を含む 11 名の学生による発表が行われました。

3 日間行われた「6th Global Conference: ESG Management & Sustainability」のコンファレンスと共催で開催された「第 15 回日中韓国際大学院生アカデミックフォーラム」では、前回までの日中韓大学院生アカデミックフォーラムとは違い、発表に対する評価が行われず、授賞式も設けていませんでしたが、世界各国の優秀な専門家による 35 件の講演 (2 件の基調講演を含む) が行われ、環境におけるグローバルイシューについて学ぶ良い機会でした。また、本学の 10 名を含めて計 58 件の口頭発表が行われ、専門家と学生による議論を深めることができました。日本からは、他に東北大学から 2 名、北海道大学から 1 名が参加しました。

すべてのセッションの終了後、参加学生はソウルのナイトツアーに参加しました。

次回は、中国地質大学 (中国) の主催で実施予定 (2024 年 9 月 11-14 日予定) です。また、2025 年は筑波大学 (オンライン)、2026 年は中国農業大学が主催校となることが決定しました。大学院学生の研究発表、交流の場として末永く続くよう、引き続きサポートして参ります。

【参加教員、学生名簿一覧】

氏名	職位/年次	所属
角替 敏昭	教授	生命環境系
康 承源	准教授	生命環境系
PUAGSANG, Nichmon	博士後期課程 3 年次	生命産業科学学位プログラム
RIVERA, Marlon	博士後期課程 1 年次	生命産業科学学位プログラム
XU JING	博士後期課程 1 年次	環境学学位プログラム
KONG PEIFU	博士後期課程 2 年次	農学学位プログラム
JEON, Suhyun	博士前期課程 1 年次	生物資源科学学位プログラム
YANG JINGWEI	博士前期課程 1 年次	生物資源科学学位プログラム
AN GUANGQI	博士後期課程 2 年次	生命産業科学学位プログラム
Shin, Min Soo	博士前期課程 2 年次	生物資源科学学位プログラム
ZHANG HONGJIAN	博士後期課程 1 年次	生命産業科学学位プログラム
HUANG XINYI	博士前期課程 2 年次	地球科学学位プログラム



オープニングセレモニー